

技術ノート KGTN 2021011201

現象

[GGH6.X] Windows Server 2019 の環境でサーバー側 IME が動作しないそうだが、今後どのようになるのか？

説明

GraphOn 社の開発責任者からのコメントは次の通りです。

Windows Server 2019 環境等でサーバー側 IME が上手く動作しない問題について、私たちは継続的に取り組み解決に向けて最善の努力を払っております。しかしながら技術的に非常に難しい問題であることも判明しております。この件について私たちは別の考えも持っています。ユーザーがローカルで使用する IME と GG 上で使用する IME が異なることは操作や機能上の混乱等を招く可能性があり、サーバー側 IME を使用することが最善の方法ではないと思います。理想的な解決策は、ユーザーがローカルアプリケーションとリモートアプリケーションの両方で同じ IME を使用できるようにすることだと考えます。

クライアント側 IME の現在の実装は、この目標を達成していないと理解しています。ユーザーはローカルの IME を GG 上で使用することができますが、GG 上のアプリケーションではローカルアプリケーションとは非常に異なる動作をします。具体的には、ユーザーがテキストを入力する場所から離れた画面の左上隅に IME のウィンドウが開きます。

私たちは、クライアント側 IME 機能を改善するためのいくつかのオプションを検討してきました。最新の 6.1.1 リリースでは `HostProperties.xml` ファイルの設定を変更することで有効にすることができる、クライアント側 IME のいくつかの改善のプロトタイプがあります。これらの改良により、ユーザーがテキストを入力するアプリケーションの領域に IME ウィンドウが開きます。プロトタイプの実装では、IME ウィンドウが 100%正しい位置に配置されませんし、テキストが入力されているアプリケーションウィンドウの右側に IME ウィンドウがはみ出してしまうこともあります。また、ローカル IME のようなワードラップもサポートしていません。しかし、ほとんどの一般的なアプリケーションの利用では、クライアント側 IME はローカルアプリケーションの場合と同様に、GG 上のアプリケーションでも近い動作になります。

この新しいクライアント側 IME のプロトタイプをスタートとして、より使い勝手の良い仕様に改良を図ってまいります。